

旭川龍谷高等学校 授業シラバス

担当者：

教科名	科目名	単位数	学年	必／選	コース／フィールド
公民	倫理	2	3	必	キャリアデザインコース
科目の目標	○「人間とは何か」「生きるとは何か」といった人生観を身に付ける。 ○思想家の歴史的つながりを理解し、現代に生きる我々の生活にあった生き方を考察し、倫理的な見地から表現できる。				
教科書	高等学校 新倫理 (清水書院)	副教材等	必要に応じて用意する		

1. 学習の到達目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 学習計画及び評価の観点

※評価の観点：X(知識・技能)，Y(思考・判断・表現)，Z(主体的に学習に取り組む態度)

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
第1編 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	6	4	・心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティ、欲求や感情・認知・発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	○	○	○
第2編 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教えーキリスト教 第2節 戒律と平等の教えーイスラーム教	6 8	5 6	・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 ・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。	○	○	○

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
第3章 東洋思想の源流： 仏教・儒教 第1節 智慧と慈悲の 教え—仏教 第2節 仁と礼の教え —儒教 第4章 芸術と倫理	6	7	・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・絵画や造形芸術、伝統文化などの作品や原典資料を手掛かりに、美の概念を自らの生き方と関わらせ、芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響がどのようなものか、などについて思索を深める。	○	○	○
第3編 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間を めぐる探究 第1節 人間の尊厳 第2節 真理の認識— 経験論と合理論 第3節 民主社会と 倫理 第4節 現代社会と 個人 第5節 近代の世界観 ・人間観の問い なおし	4	8	・現代社会を根本から考えなおすための手掛かりとして、西洋の近代の特徴を理解させる。 ・ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、人生への問いや人間の存在や価値について考察させる。	○	○	○
	8	9	・近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察させる。 ・近代の諸思想を通して自己の価値観を確立するとともに、他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる。	○	○	○
第4編 第1章 日本の風土と 精神文化 第1節 日本人の人間 観・自然観・宗教観 第2節 日本人の仏教 受容 第3節 近世社会の 思想	8	10	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や風土との関わり、日本的美意識や自然との関わりに着目して理解させる。	○	○	○
	8	11	・外来思想である仏教が、日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。 ・外来思想である儒教が日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	○	○	○
第2章 日本の近代化と 人々の生き方 第1節 西洋近代精神 の摂取 第2節 近代的個人の 自覚 第3節 主体的な生き 方と価値観の模索	6	12	・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解させる。	○	○	○
	4	1				